

「違う角度から モノを見る」

広島県 洞門寺住職 とうもんじ 三好秀範 しゅうはん

新型コロナウイルスという見えない敵と戦い、二年以上が過ぎました。マスクの着用・手指の消毒・検温・ソーシャルディスタンスなど、私たちの生活習慣に変化が生まれました。そしてマスクをせず人に会い、話や食事が出来たり、またイベントへの参加や旅行など、感染を心配すること無く過ごさせていたこれまでの日常が、失われていきました。

そんな生活を送る中、私は思いました。新型コロナは世界中の多くの人の命を奪い、多くの人を苦しませ、世界経済に大打撃を与え、私達の生活を一変させた恐ろしいウイルスです。しかし、コロナ禍の生活を経験して、自分自身、何か気付いた事はないだろうか、何か学んだ事はないだろうか…と、違う角度から『コロナ禍の生活』を見てみました。

すると、私がコロナ禍以前に送っていた、いわゆる『普通の生活』、この『普通』というものが、かけがえのない有難く尊いものだという事に気付きました。人と人が出会い、同じ空間で顔を合わせて話や食事をし、心を通わせることが、こんなにも大切であり、大きな意味があるのだと痛感しました。

『コロナ禍の生活』を一方向だけから見ると、日常が奪われた、楽しい事がほとんど無かった…など、悪い部分しか見えないかもしれません。しかし違う角度から見ると、これまで『当たり前』だと思ってきたことがいかに尊くありがたかったのか等、様々なことを気づかせてくれた日々でもありました。『違う角度からモノを見る』事の大切さを、改めて実感しました。